

申上候尤竹木伐候跡御林ハ勿論百姓林たりとも時節を不違苗木植立候様可仕候事、

寶曆九卯年

〔憲法部類坤〕御料所村々御林之義は、場所に支配被仰付候上は、一通り見分致木數等相改、取締方夫々可被申付は勿論之事ニ候處、檢見之席は一日をあらそひ廻村之事故、御林木延立入候事も難相調、麥作等見分之節は可調事候得共、是逆も無其義ゆへ、御用木伐出或は御林見分等被差出候得ば、御林帳木數ハ多分之増減有之、一體不取締に相聞候間、此度之義は別段之御趣旨を以、御林改方被仰出候條、往來之仕來ニ不拘、支配限手代差出爲相改、各江も麥作見分序又は御用透相考相越見届候上、御林帳相改候様可致候、右見分致候義は、農障之砌、村入用不掛様勘辨を加へ可被取計候、尤支配所一圓ニ見分相濟候ハ早速ニて相調申間敷候間、最寄御林限り、見分改取調相濟候分は、御林帳相改御勘定所江可被差出候、左候得バ御勘定方御普請役外御用序又は別段ニも見届として可被差出候間、此段兼而相心得格別ニ入念可被申候、右本彈正大弼殿御差圖に付申渡候間、可被得其意候以上、

丑五
年政三月

○按ズルニ、林制ニ關スル事ハ尙ホ政治部上編及ビ下編ノ水利篇養水源條ニ在リ、參看すべシ、

林守

〔地方凡例錄〕森林之事

付略○中根伐仕立之事

一御林の儀大山なれば、御山守有之、御扶持方被下、致帶刀も有り、又一通りの御林にては守無之、其村の庄屋名主相守、これは扶持方等無之、又は居村より格別遠所にて、其御林の邊に百姓家等有之、枝郷同然の處は、名主元より遠方、守も届き兼候故、其枝郷にて頭立たる百姓を御林守。